

令和5年度「学校評価」 結果公表シート

学校法人 白江学園
中浜幼稚園

当園ではこの度、令和5年度の幼稚園学校評価として、園長のリーダーシップのもと教職員自己評価、並びに関係者の皆様のお力添えをいただき、学校関係者評価を実施いたしました。本年度の学校法人全体での重点目標を「幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう」と設定し、その目標を達成するために、学年ごとに具体的な目標を設定し、学校評価に取り組みました。

重点目標以外にも、何点かの目標を設定し、取り組みましたので、その取り組みを本シートに纏め、公表いたします。

I. 教育目標

教育のモットー

中浜幼稚園は、子どもたちの明るい未来を築きます。

教育目標と理想

- ・「すこやかな健康」
- ・「ゆたかな情操」
- ・「生き生きとした自主性」
- ・「すぐれた知性」

その人の一生を決定する、大きな要素となる「すこやかな健康」「ゆたかな情操」「生き生きとした自主性」そして「すぐれた知性」を自然に、しっかりと子ども一人ひとりの内に育むことを目的とし、将来どんなことがあっても自分で考え、正しく判断し、乗り越えていく、健やかなからだところを育てることを理想とする。

II. 今年度の重点目標

幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。

III. 評価項目と取り組み状況

評価項目	取り組み内容	取り組み状況
1	【年長】 活動を楽しみながら最後までやり遂げようとする	A マーチングや和太鼓、作品展では友達と力を合わせて取り組むことの楽しさや達成感を感じさせることができた。難しく感じても友達と教え合い、あきらめずに頑張ることができていた。また、マーチング練習が増えていく前にファーストやもじノートなど進めていくべき課題に早めに取り組むことができたので、一年を通して、教材もマーチングの練習も無理なく進めることができていた。
2	【年中】 友達とのかかわりを深め、思いやりを持つ	A おもちゃ等をお片付けする時に、自分が使っていたものだけでなくまだお片付けをしている子がいたら手伝ってあげるように声掛けを行った。お友達におもちゃや遊具を譲ってもらったときの感謝の気持ちに気づくように促した。今後は一人遊びをしているお友達がいたら自主的に誘ったり、困っているお友達にも声を掛けたり手伝うなど、子ども達同士で助け合い、協力できるよう声掛けをしていきたい。
3	【年少】 自分でできることは自分でする	A 初めての事は全員がしっかりと理解できるよう、実際にして見せたり、丁寧に説明し、目と目で理解できるよう伝えていった。個人差はあるものの1年間を通してできなかったことが自分でできるようになり、自分でしようとする姿がみられた。着替えやおもちゃ等の片づけ、食事の準備や片付けも自分でできるようになった。

令和5年度「学校評価」 結果公表シート

学校法人 白江学園
中浜幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況
4	各項目の取組み内容 について	園として業務効率面における問題点は何であると認識しており、どのような取組や行動を実施したか。	B 行事の準備を効率よく進めることができた。 主任の先生の仕事量がどうしても多いと感じる為、中堅の先生やフリーの先生にも分担して負担を減らせると良い。補助の先生がいる時間、いない時間の仕事の配分をもっと具体的に考えていく。 今後は、手紙や書類の電子化もできると良い。
5		園として安全・衛生面における問題点は何であると認識しており、どのような取組や行動を実施したか。	A バス内での子供の置き去り事故のニュース後、運転手さんと共に降車時の人数確認・職員室での人数報告等すぐに対応を考え・実行してきた。対策として、必ず目視での確認を行うため座席の一番後ろにボタンも設置している。 外遊びは必ず3人以上で見守る等、他学年でも連携を図った。 衛生対策では、毎日机などを消毒し、登園時・昼食前・おやつ前には子ども達の手指の消毒も行っている。
6		個人としての目標と自身の現状の問題点は何であると認識しているか。それに対してどのような取組や行動を実施したか。	B 業務を分担したいが、内容を伝えたり、最終確認をする時間が作れず、仕事の配分ができていない。全体の仕事・担任の仕事・その他の事務仕事・相談を受けた内容など優先準備を考え、時間内に仕事を終わらせるにはどうしたらよいか考える必要がある。 同じ学年内で保育内容の進め方等に大きな差があるときは先生方に報告することや些細な事でも担任の先生と報告・連携を行う。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	業務効率化	人員配置状況における作業の分担や、電子化できる書類などを検討し、さらなる効率化を図る。
2	職員同士の連携	同じ学年内での保育の進め方がある程度統一し、協力して物事を進めていくときは報告・連携を行う。

V. 学校関係者の評価

・完全なトップダウンではなく、職員に園の問題点や課題を認識させて解決の方向性を考えさせているため、具体的でその効果の検証も正しく行われていると思います。
 ・保育の質だけでなく、職員の働き方も工夫する必要があります。そんな中での業務効率化の課題設定は必須であり、適切な問題意識を持っていると判断できます。
 ・園児の主体性を尊重しながら保護者・地域から愛される中浜幼稚園を支援していきたいと考えております。

